

第 8 0 号
 北海道
 神道青年協議会
 令和 3 年 3 月 3 1 日

道神青協の代表として『復興』の祈りを捧げる芦原会長

去る令和三年三月四日午後一時より、北海道神宮頓宮に於いて東日本大震災発災十年復興祈願祭が、菊池副会長を齋主として会員七名の奉仕により斎行されました。福島県神道青年会よりいただいた福島のお米と、参列者の撤下品として福島の名産品をお供えしました。今般の疫病の影響により、全会員への御案内が難しい中、北海道神道青年協議会第三十代会長、帯廣神社宮司、大野清徳様をはじめ、これまで復興支援に携わってこられました道神青協歴代会長に御参列戴き厳肅に斎行されました。

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分に発生した東日本大震災より十年の節目を迎えました。平成二十三年四月十一日から四日間、第一次復興支援活動として、被災地の神社に支援物資の搬入、併せて神道青年全国協議会主催の炊き出し支援の参加、平成二十三

北海道神道青年協議会
 東日本大震災発災十年復興祈願祭



菊池副会長を齋主に復興祈願祭を斎行

年六月二十七日から二日間、第二次復興支援活動として行った、瓦礫撤去などの人的・物的な支援だけでなく、平成二十四年五月二十三日から三日間行った第三次復興支援活動や、平成二十五年八月十九日から三日間行われた北海道・新潟・熊本共同復興支援活動とし



復興祈願祭齋行後の挨拶をする芦原会長



復興支援活動当時を振り返る大野元神青協会会長



これまで行った支援活動の想いを述べる中村元道神青協会会長



て、縁日を開催したことや、平成二十八年六月二十日から二日間第五次復興支援活動として行った、植樹作業や境内・参道清掃作業など、様々な復興支援活動を積極的に行ってまいりました。

被災された東北の各地では徐々に復興が進んでおります。然しながら今もお、故郷に戻れず、県内・県外へと避難生活を余儀なくされている方々は約四万八千人もいる現状と、当時のまま時が止まっている状態の町もございます。復興を遂げない被災地へ向けて心をひとつに寄せる為にも、

私たちは決してあの日を忘れることなく、できることを探しながら未来につなげ、これからも継続して祈り続けてまいります。

震災で亡くなられた方々の御霊の安らかならんこと、一日も早い復興と安寧な生活を送れるよう心よりお祈り申し上げます。

北門神社
権禰宜 山本紘輝



復興支援活動に御尽力された歴代道神青協会会長



上記のQRコードを読み取ると道神青協YOUTUBEアカウントより復興祈願祭の動画を視聴できます。

令和二年度北海道神道青年協議会

新春研修会

去る令和三年三月四日、会員二十七名参加の下、Web会議サービス「Zoom」を利用したオンライン形式で、令和二年度北海道神道青年協議会新春研修会が、午後二時十五分より開催されました。四島への想いと題し、昨年大東

亜戦争終結より七十五年の節目を迎えた中、国家主権に係わる課題の一つである北方領土問題について、返還運動の熱意と望郷の念を受け継ぎ解決まで世代を超えて活動を継続させるべし、との趣旨の下、此の度は色丹島元島民の得能

宏先生、歯舞諸島元島民二世の米屋聡先生に御講話を戴きました。



オンライン形式により行われた新春研修会

第一講の御講演を戴いた得能先生には、当時から現在に至るまでの経験と活動に懸ける思いについて聞かせて頂きました。色丹島がソ連軍に占領され、脅威と混乱の中で島民がどう暮らし、どう故郷を後にし、又は残ったか。引き揚げる道程は極めて過酷であり、劣悪な環境で何人もの島民が命を落とす中を生き延びたこと。北海道で暮らす

間も国境侵犯として漁師が逮捕され、そのまま帰らぬ人も居た戦後の日々。ロシア人島民との交流から、国家のみならず民間での交流無しでは問題を語り継げないという学び。御自身を含めた島民へのインタビューを基にした映画『ジョバンニの島』が世界へ公開され、語り継ぐ上での新たな形が見えたこと。家族の霊が鎮まる色丹島へ、いつか必ず「帰ってきた」と告げ、島民がどうか島からお遷した色丹神社の御神体を現地で再びお祭りしたいという願い。



第一講にて御講演戴いた得能宏先生

先生の幾ら言葉を尽くしても語り尽くせないであろう故郷への思いが、私達にも伝わってくるようでした。

第二講の御講演を戴いた米屋先生には、元島民二世という立場からの気付きや、今後の返還活動の課題について聞かせて頂きました。

初めて歯舞諸島に訪問した際、戦車壕跡の前に「ここに逃げ込んでも駄目なら高台の上へ行き、指示があり次第自決せよ」と指示があった事を知り、又、北海道への空襲が四島の守備隊の補給基地へ



第二講にて御講演戴いた米屋聡先生



北海道神宮頓宮の会場では大型モニターで受講



ZOOMを利用したオンライン形式の新春研修会の様子

の攻撃である事も知って、沖繩戦の惨劇は北方領土の元島民、ひいては北海道民にも他人事ではないと感じたこと。

二島返還交渉が実質的に頓挫して以来、これはまだ長くかかると思う感じがしているが、当事者から直接体験を聞く機会が無い元島民四世以降の後継者は少なく、活動の継続に難が生じているとのお話を聞かせて頂きました。

神道の信仰は地縁と切っても切れない関係があり、お祭りはその

土地に住む人無しには成立させ難いものです。元島民の方々の奪われた故郷への望郷の念と、何ら正当性の無い占領の歴史を氏子崇敬者、参拝者へ正しく伝えて、返還運動の熱を益々盛り立ててゆくことは、神道人の人生に於いて避けては通れぬ道であることを痛感する研修となりました。

羽幌神社

禰宜 佐藤直論

神道青年全国協議会

東日本大震災発災十年物故者慰霊祭

去る三月十一日、福島県浪江町鎮座の初發神社に於いて神道青年全国協議会が東北六県神道青年協議会との共催で「東日本大震災発災十年物故者慰霊祭」を斎行。発災時刻の午後二時四十六分に町のサイレンの音が鳴り響く中、黙祷。金田祐季会長が斎主を務め、三役、各地区の代表である地区理事と主管である福島県神道青年会、福島県神社庁長はじめ来賓が参列する中、発災より十年の節目に際し、慰霊の祈りの中で全国会員とともに斎行する予定



神青協金田会長が斎主となり慰霊祭を斎行

であったが、新型コロナウイルスの影響により中止。参列人数は最小限に削減した形で斎行された。祭典の様子は神青協YouTubeチャンネルにてライブ配信され、また全国の単位会や各奉務神社に於いても同時刻に慰霊祭並びに復興祈願祭が斎行された。参加を許された神青協役員は慰霊祭に先立ち被災地を視察。富岡町、大熊町、双葉町、浪江町を移動し、復興が進んだところ、反対に十年前から時が止まったままの町も目の当たりにした。

ご案内いただいた初發神社禰宜田村貴正氏からは、これまでの多くの青年会員の復興支援に対して涙ながらの謝意があり、しかしこの原子力災害からの復興という点においてはまだスタートラインにも立っていない状況。いざれ町はきれいになるかもしれないが、そこに人が戻ってこない町は未来はない。小規模でも例祭などを復活させ、焦らずできることからやっていきたい。そして、神社の復興だけでなく「ふるさとの復興」に寄与していきたいと話していた。

旭川神社

禰宜 芦原大記

北海道神道青年協議会

インスタグラムコンテスト 「フォト」「神写」・アート「かみさま」

令和二年は日本書紀が撰上されてより一千三百年の年であり、道神青協はこれを記念し、我が国の正史である日本書紀の佳節を啓発する為、インスタグラムを利用したコンテストを記念事業として企画しました。

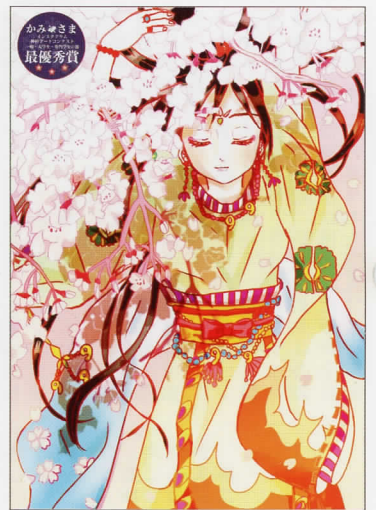
この事業は普段親しみのある神社施設や神様にご縁のあるものを一枚に映したフォトコンテスト「神写（しんじや）」と、それぞれの想う神様を一枚の絵にするアートコンテスト「かみさま」を募集し、各部門で佳作を選びそれを広く掲示し、日本の神話について、幅広い世代に関心を寄せていただくことを目的とした企画です。

コンテスト応募は昨年八月より開催し、フォトコンテストは十月十五日に、アートコンテストは本年一月末に応募を締め切り、期間応募総数は、フォトコンテスト六千点以上、アートコンテスト百三十点以上の応募が全国よりありました。

フォトコンテストでは入選は十作品、優秀賞三作品が選ばれ、最優秀賞には「祭り」の力で日本の復興を願う「日本祭典」の姿を表現したような「祭り」と「復興」への力強い願いが込められた一枚とし、「釣ヶ崎海岸を練り歩く神輿（上総十二社祭り）」が選ばれました。

アートコンテストは小学生以下の部、中学生・高学生の部、一般・大学生・専門学生の部の三部門を設け、小学生以下の部は優秀賞十三作品、中学生・高校生の

的とした企画です。



アート「かみさま」
最優秀賞受賞作品

した。
今回のコンテストの入選受賞作品をインスタグラムのみではなく、より多くの幅広い年齢層へご披露するため、三月四日より七日までの期間で北海道神宮回廊にてフォトコンテストのパネル展の展示

部は優秀賞八作品、一般・大学生・専門学生の部は入選十作品、優秀賞三作品、審査員特別賞一作品、最優秀賞には、古事記・日本書紀の神話にある神武天皇の祖先、「木花開耶姫」を鮮やかに描いた作品が選ばれました。

フォトコンテスト審査結果は十一月に、アートコンテスト審査結果は三月に道神青協インスタグラムにて発表され、入選受賞者には記念品が贈られます。

を行いました。
その他道内各都市でパネル展の計画も予定していましたが、コロナ禍の今の現状を考慮し延期として、令和三年度道神青協事業へ引き継ぎとしました。
北海道神社庁各区支部での事業、啓発に今回製作しましたパネル展の掲示の要望がありましたら、是非、道神青協までお問い合わせ下さい。

俱知安神社

禰宜 尾形啓学



フォト「神写」最優秀賞受賞作品

アートコンテストは小学生以下の部、中学生・高学生の部、一般・大学生・専門学生の部の三部門を設け、小学生以下の部は優秀賞十三作品、中学生・高校生の



北海道神宮回廊にてパネル展を展示



こちらのQRコードを読み取ると他の受賞作をご覧になることができます。

就任

道神青協会長就任にあたり



次期会長
北方宏和

先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の
 弥栄をお慶び申し上げます。そして、常
 日頃より先輩諸氏ならびに関係各位には
 多大なる御指導と御鞭撻を賜っておりま
 す事に心から御礼を申し上げます。

去る令和二年十月二十一日、旭川の地
 にて開催されました臨時総会に於きまし
 て次期会長の御承認を賜りました。コロ
 ナ禍にもかかわらず、多くの会員の
 皆様にお集まりを戴き、激励のお言葉を
 頂戴しました事を決して忘れる事無く、
 日々精進してまいる所存でございます。

昨年より新型コロナウイルス感染症が
 全世界にて猛威を奮っており、

各社に目を向けましても多くのお社で、
 例祭が例年通り行えない状況となり、年
 末年始も分散参拝を呼び掛けるに至り、
 正月三ヶ日の参拝者激減という事態に陥
 りました。令和三年を迎え、ワクチンの
 接種が始まったとはいえ、以前のような
 暮らしが戻り、例年通りのお祭りやお正
 月を迎えられるという保証は何処にもあ
 りません。また、青年会活動も昨年同様
 大変に厳しい判断が求められる事が予想さ
 れます。

当たり前に出来ていた事業を開催出来
 るか出来ないか何度も会議を重ね、準備
 をし、ようやく開催されるという状況を
 芦原会長の側で共に経験させて頂きまし
 た。開催を模索し諦めず、何とか状況を
 打破しようと真剣に取り組んだ芦原会長
 以下役員の皆様には敬意と感謝しかござ
 りません。私も新役員と共に決して諦め

る事無く、コロナを言い訳にすること無
 く、コロナ禍だからこそ、人々が地域の
 神社に足を運んでくれるような試みや、
 今尚解決の糸口が見えない北方領土問題
 について当該地区として声を上げて発信
 していかねばならないと考えており
 ます。

現代はSNS時代となり、自分で情報
 を探し選択する時代です。昔と変わらな
 い文化、伝統も日々発信していかなけれ
 ば伝わりません。コロナ禍によりこの情
 報化社会は大きく進みました。従来神職
 は言挙げせずと言われてまいりましたが、
 今や斯界に於いても積極的に情報を発信
 し、正しい知識と情報を浸透させていか
 なければならぬ時代を迎えました。

先輩諸氏がこれまで築き守られてきた
 伝統と、オンラインを活用した組織の在
 り方等、まさに時代が大きく変化してい
 る中に生きる我々がしつかりと受け継ぎ、
 次世代へと繋げていかなければなりません。
 オンラインを使用した会議、連絡手
 段についても積極的に取り入れ、来たる
 道神青協の創立七十五周年、また、神青
 協の中央研修会の開催に備える期間とし
 て、今期は基盤を更に固めていかなけれ
 ばならないと考えております。

先輩諸氏ならびに関係各位、そして会
 員の皆様には様々な方面で大変お世話に
 なりますが、当会に對しまして、より一
 層の御理解と御協力を賜りますようお願い
 申し上げます。就任のご挨拶とさせ
 て頂きます。

退任

道神青協会長退任にあたり



会長
芦原大記

平成三十一年四月より道神青協の会長
 職をお預かりしてより二年、偏に温かい
 御支援、御協力を賜りました先輩諸氏、
 会員の皆様のお陰と衷心より御礼申し上
 げます。

思い起こせば、前期の村井会長期は創
 立七十周年を迎える重要な期でありまし
 た。村井前会長の強いリーダーシップによ
 り過去に例のない数多くの事業を実施し、
 神青協から最優秀事業賞を戴くに至りま
 した。

この流れの中、臨時総会にて次期会長
 として選出、承認頂きましてからは七十
 年以上に亘り受け継がれてきた当会会長
 職を引き継ぐ者としてその責務の重さに
 身がすくむ思いの毎日でした。

その中で、今期の方針として「御即位
 奉祝事業」と「道神青協の次世代につな
 げるための会員親睦」をテーマに企画検
 討を始めました。

振り返りますと令和元年五月二日、ア
 リオ札幌にて実施しました「天皇陛下御
 即位奉祝 みんなで祝おう」平成から
 令和へは約三千年と大変多くの来場
 者を迎え御即位をお祝いできましたこと
 は誠に有り難く感謝に堪えません。そ
 れぞれの持ち味を活かして開催する
 ことができましたことは大変有意義であ
 り、会員同士の刺激にもなりました。

また日本書記撰上千三百年事業「イン
 スタコングレスと及び展示」、対内向け冊
 子「おもてなし心得」作成、オンライン
 研修会、HPの更新、新入会員向けの冊
 子の作成、復興支援に携われた歴代会長
 をお招きしての東日本大震災発災十年復

興祈願祭などコロナ禍でも可能な事業を
 模索しながら実施してまいりました。
 愚見を申し上げれば協議会である当会
 は、単位会の垣根を越え、青年神職が集
 まり実現化にむけた議論をし、実現（集
 動）に結びつけることを協議としい、協
 議会である我々は、行動してはじめてそ
 の存在価値があると認識しております。

しかしながらこのコロナ禍により思いと
 は裏腹に会員を集める活動を制限され、
 役員が議論を積み重ねた事業を縮小され、
 たは中止することが続き、暗澹たる思い
 に陥った時期もありました。しかし役員
 会の半分がウェブ会議を強いられる中、
 最後まであきらめず多くの議案を上げ
 る役員姿に何度も救われました。会員
 各位にはウェブ研修という形にもかかわらず
 らず多くの参加をいただいたこと大変有
 り難く思っております。

次期の北方会長は、何事も冷静に考
 え、決断実行できる力を持っており、
 今後コロナ終息に向かうも、まだまだ
 難しい決断を迫られることが多い中
 においても適切な判断をし、その手腕を
 十分に発揮されることと期待しており
 ます。

道神青協の益々の発展を祈念すると
 共に、御支援賜った関係各位に重ねて
 御礼申し上げます。退任の御挨拶とさせ
 て頂きます。
 誠に有難うございました。

令和二年度 会務報告

自 令和二年 四月一日
至 令和三年 三月三十一日

道神青協会務報告

四月三日

■監査会 於 ギリシヤ会議室

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・

北方副会長・後藤事務局長・本間事

務局次長・奥野監事・手塚監事・村

井顧問)

四月二十七日

■第十二回役員会 於 WEB会議

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・

北方副会長・後藤事務局長・本間事務

局次長・横井理事・荒木理事・尾形

理事・枝廣理事・鎌田理事・瀧川理

事・山本理事・井上理事・大西理事・

高橋理事・中島理事・関理事・山内

理事・月館理事・西山理事・奥野監事・

手塚監事・村井顧問)

五月十三日

■第十三回役員会 於 WEB会議

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・

北方副会長・後藤事務局長・本間事務

局次長・横井理事・荒木理事・尾形理

事・鎌田理事・瀧川理事・山本理事・
井上理事・大西理事・中島理事・関理
事・山内理事・月館理事・西山理事・
奥野監事・手塚監事・村井顧問)

六月九日

■第十四回役員会 於 WEB会議

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・

北方副会長・後藤事務局長・本間事務

局次長・横井理事・荒木理事・尾形理

事・枝廣理事・瀧川理事・鎌田理事・

山本理事・中島理事・井上理事・山内

理事・高橋理事・月館理事・西山理事

・奥野監事・手塚監事・村井顧問)

七月十六日

■北見神社正式参拝 於 北見神社

(菅原会長他十五名)

■第十五回役員会 於 北見神社

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・

北方副会長・後藤事務局長・本間事務

局次長・横井理事・枝廣理事・山本理

事・大西理事・関理事・井上理事・山

内理事・西山理事・奥野監事・手塚監

事・村井顧問)

八月十九日

■旭川神社正式参拝 於 旭川神社

(菅原会長他十七名)

■第十六回役員会 於 旭川神社

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・

北方副会長・後藤事務局長・本間事務

局次長・横井理事・荒木理事・枝廣理

事・鎌田理事・瀧川理事・山本理事・

中島理事・山内理事・月館理事・西山

理事・奥野監事・手塚監事・村井顧問)

八月二十日

■日本書紀撰上千三百年事業

オンライン研修会 於 WEB

(菅原会長他六十五名)

【演題】「現代に生きる日本書紀の精神」

【講師】 竹田 恒泰 先生

十月五日

■静内神社正式参拝 於 静内神社

(菅原会長他十六名)

■第十七回役員会

於 静内エクリプスホテル(WEB)

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・

北方副会長・後藤事務局長・本間事務

局次長・横井理事・荒木理事・枝廣理

事・鎌田理事・瀧川理事・山本理事・

中島理事・山内理事・月館理事・西山

理事・奥野監事・手塚監事・村井顧問)

十月六日

■令和二年度道神青協研修会

オンライン研修会 於 WEB

(菅原会長他六十五名)

【主題】「地方創生を報徳仕法から学ぶ」

〈伝統文化を持続可能な形で次世代に〉

【講師】一般社団法人エリア・イノベーション

ン・アライアンス 代表理事

木下 斉 先生

報徳二宮神社 宮司

草山 明久 先生

ダイヤモンド美術館 常務理事・広報部長

谷本 晃一 先生

十月二十一日

■第十八回役員会

於 旭川神社

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・北方副会長・後藤事務局長・本間事務局次長・荒木理事・尾形理事・枝廣理事・鎌田理事・瀧川理事・山本理事・井上理事・中島理事・大西理事・山内理事・月館理事・奥野監事・村井顧問)

■道神青協スポーツ大会

於 高砂台ボウリングクラブ

○出席者 四十三名

■臨時総会・懇親会

於 天金本店

○出席者 四十六名

十一月九日

■第十九回役員会

於 刈田神社

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・北方副会長・後藤事務局長・横井理事・荒木理事・尾形理事・枝廣理事・鎌田理事・瀧川理事・井上理事・山本理事・中島理事・大西理事・山内理事・川島理事・月館理事・西山理事・奥野監事・手塚監事・村井顧問)

一月二十五日

■第二十回役員会

於 WEB会議

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・北方副会長・後藤事務局長・本間事務局次長・横井理事・荒木理事・尾形理事・鎌田理事・瀧川理事・山本理事・中島理事・大西理事・高橋理事・山内理事・月館理事・奥野監事・手塚監事)

二月二十六日

■第二十一回役員会

於 WEB会議

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・北方副会長・後藤事務局長・本間事務局次長・横井理事・荒木理事・尾形理事・枝廣理事・瀧川理事・山本理事・井上理事・中島理事・大西理事・山内理事・月館理事・西山理事・奥野監事・手塚監事・村井顧問)

関係団体行事・出向

四月十三日

■神青協第十回周年委員会

(山本理事)

於 WEB会議

四月十四日

■神青協第八回事業委員会

(荒木理事)

於 WEB会議

四月二十二日

■神青協第十一回役員会

(菅原会長・北方副会長)

於 WEB会議

五月八日

■神青協第九回事業委員会

(荒木理事)

於 WEB会議

五月十日

■神青協第十一回周員会

(山本理事)

於 WEB会議

五月二十日

■神青協第十二回役員会

(菅原会長・北方副会長)

於 WEB会議

五月二十六日

■神青協第十二回周年委員会

(山本理事)

於 WEB会議

五月二十七日

■神青協第十一回神宮啓発委員会

(西山理事)

於 WEB会議

六月四日

■神青協第十回事業委員会

於 WEB会議

(荒木理事)

六月十六日

■神青協第十三回役員会

(菅原会長・北方副会長)

於 WEB会議

六月十八日

■神青協第十三回周年委員会

(山本理事)

於 WEB会議

六月二十二日

■神青協第十二回神宮啓発委員会

(西山理事)

於 WEB会議

七月二日

■神青協第十四回周年委員会

(山本理事)

於 WEB会議

七月十三日

■神青協第十一回事業委員会

(荒木理事)

於 WEB会議

七月十三日

■神青協第十三回神宮啓発委員会

(西山理事)

於 WEB会議

七月二十日

■神青協第十四回役員会

(菅原会長・北方副会長)

於 WEB会議

八月九日

■神青協第十三回事業委員会

(荒木理事)

於 WEB会議

【道神青協通信の発行について】

令和二年七月三十一日

第七十八号発行 (担当 事業部会)

令和二年十一月三十日

第七十九号発行 (担当 事業部会)

令和三年三月三十一日

第八十号発行 (担当 事業部会)

- 八月十一日
■神青協第十五回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)
- 八月二十六日
■神青協第十五回役員会
於 WEB会議
(菅原会長・北方副会長)
- 八月二十七日
■神青協常任委員会
於 WEB会議
(菅原会長・勝沼副会長・北方副会長・後藤事務局長)
- 九月六日
■神青協第十三回事業委員会
於 WEB会議
(荒木理事)
- 九月十四日
■神青協第十四回神宮啓発委員会
於 WEB会議
(西山理事)
- 九月十五日
■神青協第十六回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)
- 九月二十八日
■神青協第十六回役員会
於 京都府
(菅原会長・北方副会長)
- 十月十二日
■神青協第十四回事業委員会
於 富士山小御嶽神社里宮
(荒木理事)
- 十月十二日・十三日
■北方領土の碑現状視察並びに清掃奉仕
於 納沙布岬
(菅原会長・北方副会長・菊池副会長・村井顧問)
- 十月二十五日
■神青協第十七回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)
- 十月二十六日
■神青協第十五回神宮啓発委員会
於 WEB会議
(西山理事)
- 十月二十八日
■神青協第十七回役員会
■神青協次期会長監事選挙委員会
於 神社本庁
(菅原会長・北方副会長)
- 十一月十一日
■神青協第十五回事業委員会
於 WEB会議
(荒木理事)
- 十一月十三日
■神青協第十八回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)
- 十一月二十四日
■神青協第十八回役員会
於 神社本庁
(菅原会長・北方副会長)
- 十一月二十五日
■神青協臨時総会
於 神社本庁・WEB
(菅原会長・北方副会長・勝沼副会長・後藤事務局長)
- 十二月十八日
■神青協第十九回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)
- 一月二十六日
■神青協第二十回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)
- 一月二十八日
■神青協第十九回役員会
於 WEB会議
(菅原会長・北方副会長)
- 二月三日
■神青協第十六回事業委員会
於 WEB会議
(荒木理事)
- 二月十八日
■神青協第二十回役員会
於 WEB会議
(菅原会長・北方副会長)
- 二月二十日
■神青協第二十一回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)
- 三月十日
■神青協第二十一回役員会
於 宮城県
(菅原会長・北方副会長)
- 三月十一日
■東日本大震災発災十年物故者慰霊祭
於 初發神社(福島県)
(菅原会長)
- 三月十八日
■神青協第二十二回周年委員会
於 WEB会議
(山本理事)



道神青協事業用品

『北海道の御朱印帳』

大好評頒布中

頒布価格(送料別)

一冊 千円

※お求めの方は左記までご連絡下さい。

北海道神宮内事業用品受付事務局

電話 〇一一・六一一・〇二六一

FAX 〇一一・六一一・〇二六四

令和二年度 協賛神社一覽

【札幌】北海道神宮・三吉神社・豊平神社・札幌諏訪神社・札幌村神社・彌彦神社・信濃神社・札幌護国神社・篠路神社・琴似神社・発寒神社・江南神社・新琴似神社・手稲神社・西野神社・相馬神社・月寒神社・厚別神社・大谷地神社・白石神社・廣島神社・江別神社・錦山天満宮・石狩八幡神社・当別神社・豊栄神社・千歳神社・上手稲神社・烈々布神社・水天宮・西岡八幡宮・新川皇大神社・石山神社・札幌祖霊神社・星置神社・澄丘神社

【道南】函館八幡宮・亀田八幡宮・湯倉神社・船魂神社・大森稲荷神社・福島大神宮・尻岸内八幡神社・鹿部稲荷神社・銭亀八幡神社・厳島神社・石崎地主海神社・乃木神社・七重浜海津見神社・一本栗地主神社・落部八幡宮・砂原稲荷神社・意富比神社・上磯八幡宮・雷公神社

【桧山】神社庁檜山支部

【後志】住吉神社・龍宮神社・小樽稲荷神社・天満宮・潮見ヶ岡神社・豊足神社・高島稲荷神社・余市神社・仁木神社・美

國神社・泊稲荷神社・岩内神社・小沢神社・俱知安神社・京極八幡神社・喜茂別神社・真狩神社・狩太神社・八幡神社・壽都神社・水天宮・厳島神社

【空知】夕張神社・岩見沢神社・空知神社・南幌神社・市来知神社・滝川神社・空知沿岸交通神社・江部乙神社・赤平神社・出雲神社・由仁神社・樺戸神社・長沼神社・新十津川神社・芽生神社・秩父神社・雨竜神社・沼田神社

【上川】鷹栖神社・旭川神社・上川神社・東神楽神社・神居神社・永山神社・當麻神社・比布神社・大上川神社・東川神社・美瑛神社・中富良野神社・富良野神社・山部神社・和寒神社・劍淵神社・土別神社・風連神社・名寄神社・下川神社・中川神社・北海道護国神社

【留萌】苫前神社・鬼鹿厳島神社

【宗谷】北門神社・浜頓別神社・厳島神社(枝幸)・豊富八幡神社・歌登八幡神社・厳島神社(礼文)・北見富士神社

【網走】網走神道青年会・網走神社・北見神社・女満別神社

美幌神社・津別神社・斜里神社・清里神社・小清水神社・端野神社・訓子府神社・置戸神社・留辺蘂神社・常呂神社・上常呂神社・相内神社

【紋別】厳島神社・滝上神社・興部神社・雄武神社

【胆振】室蘭八幡宮・中嶋神社・本輪西八幡神社・樽前山神社・恵比須神社・伊達神社・壮瞥神社・虻田稲荷神社・豊浦神社・刈田神社・白老八幡神社・追分八幡神社・早来神社・厚真神社・鷓川神社

【日高】義経神社・大神宮社・氷川神社・静内神社・三石神社・浦河神社・様似住吉神社・住吉神社

【十勝】帶廣神社・大正神社・川西神社・芽室神社・御影神社・清水神社・新得神社・鹿追神社・士幌神社・上士幌神社・音更神社・札内神社・池田神社・陸別神社・本別神社・足寄神社・浦幌神社・十勝神社・大樹神社・茂岩神社・幕別神社

【釧路】厳島神社(釧路)・三吉神社・鳥取神社・昆布森神社・厚岸神社・霧多布神社・川上神社・弟子屈神社・阿寒神社・厳島神社(白糠)・厚岸真龍神社

【根室】金刀比羅神社

編集後記

先ずは通信第八十号発行に際し、社務多忙の中御寄稿戴きました皆様にご心より御礼申し上げます。本号は芦原会長期最後の通信となります。今期はいつも通りの事業の開催が難しい状況の中、WEBを利用した会議や研修会を積極的に行い、コロナ禍に於ける事業の展開を行って参りました。

次期北方会長期に於かれましても会員一同更に結束を深めて事業に取り組んで参りますので先輩諸兄、御関係の皆様には御支援、御協力の程宜しくお願い申し上げます。

(荒木)

題字『道神青』について

本通信は、平成四年二月一日創刊にあたり、当時の中野尹亮北海道神社庁々長に御揮毫戴いたものです。

北海道神道青年協議会事務局

当別神社社務所内

電話 〇一三三二一三二二五四六
 FAX 〇一三三二一三二二六九〇
 メール orni.thopter1109@gmail.com